

人生を変えた ウルトラQ体験

写真家&ヘアデザイナー伊勢祥延さんの
人生の転機になった不思議話。皆様とシェア
させていただきます。(編集部 島田 浩)

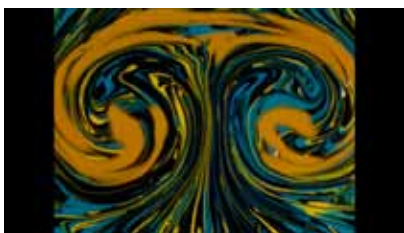


それはいつもの雑談だった。

本店2Fのまほろばビューティーで伊勢さんに髪を切ってもらっていた時の事だ。ひょんなことから「ウルトラQ」の話になった。(お互いの年がバレバレである)

伊勢さん(以下伊) あのウルトラQのオープニング、覚えている？

二つの渦がぐるぐると回って真ん中で一つになる映像。じつは、僕、実際にあれを見たことあるんだよね。宇宙空間で…。



—宇宙空間ですか？

伊) 30歳の頃沖縄の海でダイビングしていた時に、ハブの560倍の猛毒を持つというオニダルマオコゼに刺されて死にかけたんだよね。

—それは大変でしたね。

伊) 現地の病院に緊急入院して解毒し一命をとりとめた後、札幌の病院に転院して壊死した皮膚を移植することになったんだけど、その時の全身麻酔で意識がどんどん遠のいていくとき、身体からスッと抜けた感じがしたんだ。

—まるで臨死体験みたいですね。

伊) そうなんだ。気が付くと自分は宇宙空間みたいなところにいる、宇宙そのものが自分の意識のすべてであり、自分はその一部だと感じ、永遠の広さを持つこの宇宙が自分なんだと思ったんだ。

—それはすごい話ですね。

伊) でも、その時同時に、完璧な無力感というか、恐怖を感じたんだよね。自分が今まで生きてきた過去を振り返ると、このまま人生が終わってしまったら、もうそれは取り返しがつかない。それは、手に負えない世界であり、生きているときにしかりカバリーできないことに気が付いたんだ。

—生きている今という人生には、そんな意味があるんですね。

伊) このまま死ぬわけにはいかない。助かりたい、戻りたい、と強く念じると、目の前の宇宙がああいう渦のようになってゆっくりと回転し出し、やがて中央付近が丸く象られていったんだよね。

—それでウルトラQだったんですね。

伊) その真ん中の日輪のような光の中に3つの太陽が見えた。このまま天国に行くかと思ったけれど、気づいたら手術台の照明だったんだ。

「嗚呼、戻ることができた…」という感極まる喜びで涙が止まらなかった。看護師さんなど周りの人はそんなこと知らないから、「だいじょうぶ。心配ないですよ」と慰めてくれるんですが、「そうじゃないんだ!」と言いたくても麻酔が効いて言葉にならなかったんです。(笑)

—それは人生を変えるような体験でしたね。

伊) そう、今にして思えば、それが人生を変える大きな転機だったかもしれない。とにかく、生還してからは、「人のためになることをしなきゃダメなんだ」と思うようになったんだよね。

自分の技術を使って、キレイになってもらい、人に幸せになってもらう事をしたって。そのためにはこのまま人に使われていちゃ無理だ、と。それで独立することを決めて、その後14年間店を経営することになったんです。

—そうだったんですか…。そんな体験があって、今があるんですね。アフガンやイラクへ単身取材に乗り込んだのも、そんな思いがベースにあるんでしょうね。

伊) そうなんだよね。その思いはあの体験から10年経った40歳過ぎに、再び僕を駆り立てることになったんだよね…。

(続く?)